

みんなのけんきゅう



オープン授業研究会（中学部）「仲間と学び合う音楽づくり」

中学部段階で必要と考える、生涯にわたって学び続ける力（興味・関心を広げる／自分から自信をもって表現する）を育むために、音楽の授業づくりでは「仲間とともに学び合う場」を大切にしてきました。今回の「秋田音頭」を題材にした授業では、生徒が得意な表現を選択し、自分たちで音楽表現（歌唱、器楽、身体表現）を工夫しながら、仲間と一緒に音楽をつくり上げてきました。

11/6の授業研究会で「音楽表現を通して仲間と『合わせる』ことよさに気付くために」のテーマでグループ協議、公開討論を行い、そこでいただいたアドバイスを基に改善授業を実施しました。

・・・グループ協議で出されたアイデア ・・・実際の改善点と生徒の様子

- ・プレスや抑揚など、合わせるポイントを分かりやすく示す。
- ・歌う→体で表現→言語化する
「〇〇で上がっているんだね」



歌

→五線譜作りでは1フレーズごとに歌い合い、抑揚やプレスの箇所を話し合いで決めた。
→頭や手を上下に動かすことで抑揚を表すことができた。

- ・「音楽が楽しい」と感じられるように、歌とタイミングを合わせる。
- ・手本となる生徒が見やすい配置を工夫する。



太鼓

→手本が必要な生徒が見やすい配置にしたり、難しいリズムを繰り返したりしたことで、リズムがそろうようになった。

- ・踊りのポイントを押さえる。
- ・「作り出す」→「表現する」喜びを感じられるように、「洋の会」に見てもらうことを伝える。



踊り

→踊りに言葉（「右」「ひらひら」など）をつけて、繰り返し練習したことで、ポイントとなる踊りについて覚えて踊ることができた。

- ・他のグループと演奏を合わせて、その友達からの評価を伝える。
- ・リードする音（ベースライン）が聞こえやすいように工夫する。



楽器

→「あと〇回」と伝えると、集中して最後まで練習できた。
→ベースの音階を和音に変更することで、演奏が合ってきた。



講評



・一つのことに向かう素晴らしさが表れていた。「評価する」「受け入れる」折り合いは難しいが、多くのTが関わることで主観が客観になる。様々な曲のよさに触れてほしい。

・音楽で積極性を引き出すことが創造性につながり、互いの心をつなぐ媒体として音楽に取り組んでいる。それぞれに合った努力が達成感につながっている。

洋の会の方々からの指導

- ・日本舞踊など、踊りをメインに活動している団体「洋の会」の皆さんから、「秋田音頭」の一つ一つの動作を分かりやすく教えていただき、交流を深めました。生徒の意欲、踊りの技術ともに大いに高まりました。

